

保谷小教育目標
すすんで学ぶ子
助け合う子
元気な子

保小だより



NO. 446・4月号 西東京市立保谷小学校 平成31年4月8日

保谷小ホームページ <http://www.nishitokyo.ed.jp/e-houya/>

予測困難な時代を生き抜く力を育てる保谷小学校

校長 野崎 信行

新型コロナウイルス感染症に対する不安がある中、令和2年度が始まりました。多くの国々が新たな大きな課題ととらえ、対応しています。解決を図るために私達は他者を思いやりながら協力して解決していくことが大切と思っています。今年度から本格実施する新学習指導要領には、「様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする」と明記されています。20年後、30年後に感染症をはじめ、AIによる技術革新、生産人口の減少、気候変動、国際関係等による変化などの課題等を解決していくために、本校の子どもたちが力を発揮できるようにしなければいけません。そのために保谷小学校では様々な学習課題、学校生活上の課題に対して自ら考え、協働しながら解決を図る資質・能力を高めていきたいと考えています。

本日の入学式で、62名の新1年生を迎え、全校498名の保谷小学校の令和2年度の歩みが始まりました。教育目標の3つの視点から今年度の重視する教育を説明します。

○すすんで学ぶ子

文章を読み取ったり、資料を読み取ったりできる力、読み取った内容を基に自分の考えを構築し表現できる力、さらに友達と対話することで自分の考えを深める力を育成します。以上の力を校内の研究活動を中心に、外部からの講師からの指導を受け、教員同士で話し合い授業改善をしていきます。

また、基礎・基本の定着を目標とし、放課後行ってきた個別学習を昨年度よりも多く時間を設定します。

今年と同じように、親子読書など読書活動をより一層推進していくことで、本好きな子を増やし、読解力を向上さ

せるとともに豊かな心を育てていきます。

○助け合う子

友達との対話が充実するためには、共に学び合う友達同士が親和的な関係にならなければいけません。言い換えれば、一人一人が居心地の良さを感じる学級・学年・学校が望まれます。親和的な関係を築くためにエンカウンター(学級集団づくりエクササイズ)という取組みを行います。先生と友達、友達同士の関係づくりを進めます。

行動目標の取組みは今年も行います。運動会等の行事の成功という大きな目標や、日常の学級内の小さな目標の達成に向けて、子どもたちが協力し合いながら取り組み、繰り返し成就感を感じていくことを重視します。自分や相手のことを考えることを通して、友達の良さや違いを認め合い、協働できる子の育成に努めます。

○元気な子

本校の特色である芝生の校庭を生かした校庭での外遊びや体育活動を大切にします。オリンピック・パラリンピック教育として、昨年度実施したボッチャ体験を今年も行います。誰でも活躍ができるボッチャを保谷小学校の特色ある学習にしていきます。

最後に、来年1月29日(金)に全国学級経営研究大会東京大会を本校で開催します。保谷小学校は明治7年7月開校以来100年以上も保谷町で地域・保護者とともに歩んできた学校です。西東京市の発展、教育の発展に貢献する責務があると考えます。子どもたちに、「学級をよくする。学校をよくする。西東京市をよくする。」意識を醸成し、子どもの笑顔があふれ、素晴らしい声が響き合い、夢が広がる学校、地域を目指します。